

令和5年度 北海道旭川南高等学校 シラバス

教科名	科目名	年次	単位	年間予定時間	担当
外国語（英語）	論理・表現Ⅰ	1年次	2	70	奥山・柳田

年間指導計画

前期中間 時数	前期期末 時数	後期中間 時数	後期期末 時数
14	20	18	18

授業の目標

「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。

学習方法

1. 話したり書いたりするアウトプット活動を通して、コミュニケーションに必要な文法・語法の知識を定着させる。
2. 聞いたり読んだりしたことから、話したり書いたりする材料を入手し、1の活動に活かす。

教科書・教材

教科書：Vision Quest English Logic and ExpressionⅠ Standard（啓林館）
 副教材：教科書準拠ワークブック（啓林館）Focus on Listening（エミル出版）
 Vision Quest 総合英語（啓林館）

評価の観点・規準・方法

評価の観点	評価規準（到達目標）	割合	評価の方法
ア：知識・技能	外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身につけており、その知識を4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	40%	定期考査・単元テスト
イ：思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したり適切に伝え合っている。	40%	授業中の取組状況
			定期考査・単元テスト インタビューテスト・発表（スピーチ・プレゼン）
ウ：主体的に学習に取り組む態度	外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国で伝達されたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。	20%	授業中の活動への取組状況
			課題・宿題等の提出物の提出状況

その他・備考

上に示す観点に基づいて学習のまとめりとともにA, B, Cで評価し、学年末に5段階評価の評定にまとめる。
 学習に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。